

くす通信

第284号
2024年10月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

耳鼻いんこう科より

声のかすれと 声の病気について



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医学に関する書物のことを言います。本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

耳鼻いんこう科の紹介

耳鼻いんこう科は常勤医2名で診療を行っています。耳から鼻、のど、頸部まで、鎖骨より上で目と脳、頸椎以外をほぼすべて守備範囲としています。

外来は火、木、金で行っており、原則は午前中です。手術は月、水を基本とし、それ以外の曜日でも手術が入ることが多いです。開業医の先生からの紹介患者さまのみを診察していますので、当科を受診希望の方はまずはかかりつけ医の先生を受診してください。

当然のことながら癌治療も行っています。手術はもちろん、放射線治療、抗がん剤を含む薬物療法も行っており、集学的に治療を行っています。

また救急疾患にも対応可能で、難治性の鼻出血や頸部膿瘍、気道閉塞などにも対応しています。

国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日～金曜日
- 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始(12月29日～翌年1月3日)
- 受付時間 8:15～11:00

〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5

TEL 096(353)6501(代表)

FAX 096(325)2519

H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>



※ 形成外科のみ受付は、水曜日以外の13:30～16:30となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。

声のかすれと 声の病気について

耳鼻いんこう科部長
うえむら なおき
上村尚樹



音声は人間のコミュニケーション社会には必要不可欠な手段です。その障害の一つが「かすれ声」、医学的には医学的には嗄声（させい）といいます。

嗄声の原因にはいくつかありますが、その前に声が出るメカニズムを説明しましょう。

声の源は声帯の振動です。声帯は喉仏の少し下方にV字型になって存在しています（図1）。

呼吸しているとき声帯はV字型になっており、発声時は左右の声帯が正中で合わさって、私たちが息を吐くことで生じるその気流により声帯が振動して発声するのです。

左右の声帯が正中で合わさって初めて正常な声が出るわけで、さらに声帯は粘膜と筋肉できており、それらは反回神経によって支配されています。したがって嗄声が起きる原因は声帯が正中で合わないことです。嗄声と一言で言っても、この症状はかなり生活に支障が出ます。例えば、

- 相手に伝わりにくく、何回も聞き返されるのでつらい
- 声が長続きしないので、何回も息を吸いながらしゃべらないといけないのでつらい

- 音量が小さくなるので、声を出すのに力が
必要で、きつい

などなどです。声は大切ですね。

その原因は下記のごとく多岐にわたります。

- ① 神経が原因のもの
- ② 喉頭あるいは声帯に原因があるもの
- ③ 精神疾患によるもの（心因性発声障害）
- ④ 全身疾患
- ⑤ 消化器疾患または呼吸器疾患

その中で実際の現場で多い疾患をあげてみます。

- 声帯ポリープ（図2：②にあたります）

これはよく耳にすることが多いでしょう。歌手、保育士、教師など声をよく使う職種に多い疾患です。治療は手術でポリープを切除すれば治癒します。

- 喉頭癌（図3：これも②にあたります）

これもよく耳にする疾患と思います。これは主に喫煙者に多い疾患です。治療は早期であればレーザー切除、あるいは放射線治療で9割は治癒します。進行しますと飲み込みづらい、息が苦しい、喉が痛い、首のリンパが腫れてきたなどの症状が出てきます。その際は手術で喉を摘出したり、抗がん剤併用の放射線治療を行ったりします。

以上のように声のかすれを自覚したら、まずは耳鼻いんこう科専門医にご相談ください。

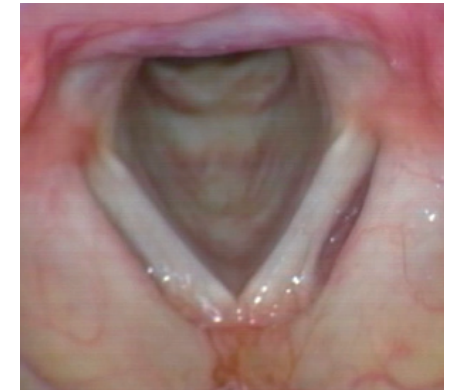


図1 正常の声帯 安静時

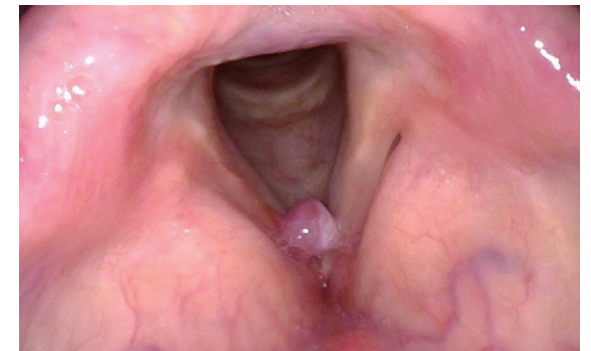


図2 右声帯ポリープ



図3 喉頭癌